

視覚・聴覚障害の併存で全死亡および心臓血管病死リスクが大幅に上昇

聴覚障害および視覚・聴覚障害の併存は、認知症やフレイルなどの加齢に伴う健康障害に影響することが知られているが、死亡リスクとの関連についてはよくわかっていない。そこで本研究では、聴覚障害および視覚・聴覚障害と死亡率との関連についてシステマティックレビューを実施し検討した。

2021年6月までに発表された論文のうち、18歳以上の男女を対象に聴覚障害および視覚・聴覚障害との関連を検討した後ろ向き研究14件、前向き研究13件（参加者総数1,213,756例）を解析の対象とした。解析の結果、聴覚障害のある人では全死亡リスク、心臓血管死リスクともに有意に高かった（ハザード比はそれぞれ1.13、1.28）。また、視覚・聴覚障害が併存している人では全死亡および心臓血管死のリスクはさらに高まった（同1.40、1.86）。聴覚レベルと死亡リスクの間には用量依存的な関係が認められ、聴覚レベルが30dB悪化するごとに全死亡のハザード比は2倍となった。

今回の結果から、聴覚障害と視力障害が併存すると全死亡リスクおよび心臓血管病死リスクが大幅に上昇することが示された。聴覚障害がある場合には定期的にフォローアップを行う必要がある。

出典：Journal of American Medical Association. Otolaryngology – Head and Neck Surgery. 2021 Dec 30; e213767.